

住

愛知県左官業協同組合

職業としての歴史は古いが 現代的工法も導入

組合設立のきっかけは明治 24 年の濃尾地震

職業としての左官はかなり古い歴史を持っています。古代日本では「左」は重要な意味を表し、平安時代には唐の影響もあって右大臣よりも左大臣の方が高い地位にあったとされています。「官」は国の機関や役職を表します。左官の語源については諸説あるようですが、このような職業名が付けられていること自体、かなり古くから、しかも重要な役割を持った職業であったことが分かります。

愛知県下の左官組合は、明治 24 年（1891）に発生した濃尾地震の復興のため、左官業の人たちが集まった事をきっかけにつくられました。当初は地域ごとの単独の集まりでした。ところが大正 12 年（1923）の関東大震災の復興工事の際、人手が不足して新規参入する人が多すぎて混乱を招いてしまいました。そのため、従来からあった各左官組合が一体化し、より強固な組織化を図りました。

さらに名古屋と大阪の組合が中心となって全国の



最近では珍しくなったお寺の火灯窓を塗る作業



左官業に携わる女性が増えている

組合に呼び掛け、昭和 11 年（1936）に名古屋の鶴舞公園で創立大会を開き、翌 12 年（1937）に日本左官業組合連合が結成されました。

新しい漆喰工法の開発

漆喰は日本で古くから使われ、調湿性や抗菌性など優れた特性があり、各方面での利用が期待される壁材で、土壁の上に塗るのが基本です。ところが、下地になる壁の材料や工法が変化し、出来上がりにばらつきが出るようになってきました。その結果、公共工事では使われなくなっていました。

また材料の調合を職人の勘と経験で行っていたため、仕様を明確化できず普及が進みにくい状況がありました。そのため、令和 2 年（2020）に新たに漆喰の材料をパネルなどの上から塗ることができる乾式工法用として「現代しっくい」を開発、JIS 制定されたことにより、公共建築工事の標準仕様書にも採用されるようになりました。今後は、学校や病院などで漆喰が幅広く用いられることで、これまで以上に左官の技術の進化が期待されます。

左官の仕事は昔ほどの力仕事ではなくなりつつあり、最近では愛知県左官高等職業訓練校に入校する女性も増えています。今後、女性の感性を生かした新しい壁づくりが期待されています。